

2009 年桜島構造探査の実施について

平成 21 年度から開始された「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」に基づき、京都大学防災研究所など全国の 9 大学と気象庁が協力して、桜島の火山体構造探査を実施します。

この構造探査は、1993 年以降桜島北部の始良カルデラにおけるマグマの蓄積が進行し、2006 年からは桜島南岳の東山腹の昭和火口において噴火が断続的に繰り返され、近い将来、噴火活動の活発化が予想される桜島における火山噴火のより正確な予測のために実施するものです。

構造探査は、発破により人工地震を発生させ、その地震波形を多数の地震計で観測し、それを解析することにより始良カルデラからマグマが移動してくると推定される桜島北東部の地下構造を推定します。これにより、桜島のマグマの供給系の具体的イメージ化、マグマの動きの推定精度の向上などが期待されます。

火山体構造探査は、これまで霧島山、雲仙岳、磐梯山、阿蘇山、伊豆大島、岩手山、有珠山、北海道駒ヶ岳、富士山、口永良部島、浅間山、桜島の 12 火山において実施されてきました。今回の探査は昨年度に実施した桜島の構造探査のうち、北東部を集中的に精査し、構造の時間的变化の把握をめざしたものです。

今回の構造探査の実施日時等は、下記のとおりです。

記

実施日時：平成 21 年 12 月 9 日(水) 22 時 07 分～12 月 10 日(木)0 時 27 分

実施場所：桜島北東部（別紙参照）

実施方法：桜島北東部に掘削された 15 カ所の掘削孔(深さ 10m)において発破による人工地震を発生させ、臨時的に設置した約 220 台の地震計で観測を実施。

発破薬量：20kg

参加機関：北海道大学、秋田大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学および気象庁(幹事機関：京都大学防災研究所)

本件に関する問い合わせ先

- ・ 京都大学防災研究所火山活動研究センター 准教授 井口正人
電話：099-293-2058
- ・ 気象庁地震火山部火山課火山対策官 斎藤 誠
電話：03-3212-8341 内線 4530

(別紙)

人工地震を発生させる発破点と観測点測線の配置図



：発破点。S1～S15の15地点。
回：地震計(220台)

発破点の例



観測点の例

